



お問い合わせ先：

ジョン・ダッチャー (John Dutcher) 電話 (515) 334-3464
電子メール dna@qwestoffice.net

バイオテク作物の導入は世界で引き続き増加する見通し バイオテク作物の導入規模が、29カ国の農業従事者1670万人と 1億6000万ヘクタールの農地に達する

フィリピン、マニラ (2012年2月7日) - バイオテク作物技術の世界的な導入は、前例にないペースで広がり続けています。ISAAA (国際アグリバイオ事業団) が本日発表したバイオテク作物に関する年次報告書の著者クライブ・ジェームズ (Clive James) 氏によると、2011年には、さらに1200万ヘクタールに栽培が行われ、年間成長率は2010年の8%増であったとしています。

ジェームズ氏は次のように話しています。「前例を見ないバイオテク作物の導入率は、世界中の何百万もの農業従事者が、バイオテク作物に圧倒的な信頼と信用を寄せていることを示しています。バイオテク作物が1996年に商業化されて以来、世界29カ国の農業従事者が、12億5000万ヘクタール以上の土地でバイオテク作物を栽培・再栽培する決断を1億回下したことになります。この作付面積は、米国と中国を合わせた土地面積よりも25%広大です」

バイオテク作物は2011年に、19カ国の開発途上国と10カ国の先進工業国を含む、合計29カ国の1670万人の農業従事者によって、1億6000万ヘクタールで栽培されました (2010年は1億4800万ヘクタール)。この導入率は、1996年に比べるとヘクタール面積で94倍増となっており、バイオテク作物は近年で最も早いペースで導入された作物技術と言えます。

開発途上国における導入のペースと面積は2倍増。

開発途上国は2011年にバイオテク作物技術を渴望したことを示しています。バイオテク作物の導入を先導している開発途上国は、ラテンアメリカではブラジルとアルゼンチン、アジアでは中国とインド、アフリカ大陸では南アフリカとなっており、これらの国の総人口は世界人口の40%を占めます。

開発途上国におけるバイオテク作物の2011年の増加率は11%で820万ヘクタール増となっており、同5%または380万ヘクタールであった先進工業国に比べて、導入ペースと作付面積の両方で2倍の伸びを示しました。

開発途上国は、2011年に世界のバイオテク作物の約50%を栽培し、2012年には先進工業国の作付面積を上回ると予測されます。さらにジェームズ氏によると、世界の90%以上 (1500万人以上) の農業従事者は、開発途上国の資源不足の小規模農業従事者であり、その数は2010年から8%または130万人増加しています。

世界中で顕著な進展を遂げる。

バイオテク作物における進展が世界各地で見られ、その進展は世界のバイオテク作物商業化の全体的な展望を考える上で非常に重要です。

報告書の重要点は以下の通りです。

- 米国は、6900万ヘクタールを使用し、主要バイオテク作物全体での平均導入率が約90%と、引き続きバイオテク作物の生産を先導しています。
- ブラジルは、ヘクタール数においては米国に次いで第2位で、作付面積は3030万ヘクタールとなっています。ブラジルは3年連続で世界最大の増加率を示し、前年比20%増の490万ヘクタール増という目覚ましい増加となりました。
- インドは10年間、遺伝子組み換え綿の栽培に成功し、2011年には1060万ヘクタールの作付面積を持ち、綿花の収穫は国内で生産性と収益が最も高い作物になりました。
- 中国は綿花の作付面積の71.5%（390万ヘクタール）を遺伝子組み換え綿に充てました。このような成長率は、平均でわずか0.5ヘクタールを耕す、資源不足の小規模農業従事者700万人によって促進されました。
- フィリピンは、遺伝子組み換えトウモロコシの作付面積が60万ヘクタールを超え、その増加率は20%であったと報告しました。フィリピンはアジア内で遺伝子組み換えトウモロコシを栽培する唯一の国です。
- アフリカでは250万ヘクタールにバイオテク作物が植えられ、バイオテク作物の導入国と作物をさらに増加させるために、規制プロセス内で圃場試験を行い、進歩を遂げています。

ブラジルが世界的成長の「エンジン」となる。

世界のリーダーたちは、ブラジルの多大な成長により、同国を世界的成長の「エンジン」と見なしています。

ジェームズ氏は次のように話しています。「ブラジルは迅速な認可システムを持ち、成長を支援するために3種の技術を生み出しました。このモデルに含まれるのは、3000万ヘクタール以上に導入された民間部門の専有バイオテク作物、許可済み作物を既に出荷している官民のパートナーシップ、“国産”バイオテク作物（ウイルス抵抗性を持つ豆）の開発出荷能力です。これらの3種の技術が集まり、ブラジルに新しいバイオテク作物の多様なパイプラインを提供しています。このようなアプローチはブラジルにとって非常に効果的であり、他の国々にとって重要な教訓になります」

将来の成功についての洞察

16年間のバイオテク作物商業化において、業界は多くの教訓を得ました。規制や許可の検討から、バイオテク作物の堅固としたパイプラインの構築に至るまで、業界と政府が同様に推進する洞察力と世界的なイノベーションを通じて、持続的な成長と開発が達成されてきました。

「バイオテク作物商業化における成長を継続するには、3つの要件があります。第一に、政治的な意志と支援を確保しなくてはなりません。第二は、影響力の大きい、根本的な変化をもたらす革新的技術を開発することです。そして第三は、時宜を得た継続的な成長と生産性をもたらす新しい技術を農業従事者に提供するために、科学に基づいた、時間および費用対効果の高い自由化を確保することです」とジェームズ氏は話しています。

展望：

- バイテク作物（トウモロコシ、大豆、綿、カノーラ）を引き続き高率で農地に導入することが、大きな可能性に繋がります。2011年には、これらの作物が1億6000万ヘクタールに植え付けられ、現在、今後の導入に利用可能なヘクタール数は約1億5000万ヘクタールです。3000万ヘクタールの潜在的に作付け可能な面積は中国にあります。中国では、遺伝子組み換えトウモロコシを優先しており、肉類の国内消費が高まるにつれ、飼料作物としてのトウモロコシの需要も急速に高まっています。
- ヨーロッパ諸国では、バイテク作物の支持はさまざまです。2011年の遺伝子組み換えトウモロコシ作付面積は、記録的な114490ヘクタールとなり、2010年比25%増でした。同時に、BASFは2012年1月中旬をもって、ヨーロッパでの栽培用の全バイテク作物商品の開発と商業化を中止しました。BASFは、疫病抵抗性ポテト「フォーチュナ（Fortuna）」など既に開始した製品についてはEU規制プロセスを続けます。
- 北米における遺伝子組み換え小麦の商業化は、再検討されています。また、多くの国や世界の企業において、干ばつ耐性、病害耐性、穀粒品質を改良するために、現在、小麦における一連のバイテク形質の開発が急ピッチで進められています。遺伝子組み換え小麦は2020年までに商業化される見込みです。

導入達成へのISAAAのアプローチは、ビル・ゲイツのG20への提案と一致し、官と民および先進工業国と開発途上国間の知識共有、イノベーション、創造的なパートナーシップという3本柱を基盤にしています。ISAAAは、新しいバイテク作物技術の時宜を得た効率的かつ効果的な開発（Development）、自由化（Deregulation）、および展開（Deployment）に基づいた、3方面の**3D戦略**を推奨します。

詳細またはエグゼクティブ・サマリーについては、www.isaaa.orgをご覧ください。

報告書は、ヨーロッパの2つの慈善団体、イタリアのブッソレラ・ブランカ財団（Bussolera-Branca Foundation）とイベルカハ（Ibercaja）の慈善部門から資金提供を受けています。ブッソレラ・ブランカ財団は、バイテク作物の知識共有を支援し、グローバル社会による意思決定を促進しています。イベルカハは、スペインのトウモロコシ生産地域に本部を構えるスペイン最大手銀行の1つです。

国際アグリバイオ事業団（ISAAA）は、知識と作物バイオテクノロジーの適用を共有することによって、飢餓と貧困の緩和に貢献するために設立された国際的ネットワークを持つ非営利団体です。ISAAAの会長兼創設者であるクライブ・ジェームズ（Clive James）氏は、過去30年間にわたりアジア、ラテンアメリカ、およびアフリカの開発途上国に在住して働き、作物バイオテクノロジーと世界の食糧安全保障を重視した農業研究開発に注力しています。